

日本気象学会2009年度総会議事録

日 時：2009年5月29日（金）13時30分～15時20分

場 所：つくば国際会議場（茨城県つくば市）

参加者数：通常会員の会場出席者90名，総会参加票のうち有効票による出席者598名，合計688名。（通常会員現在総数1,092名（2009年4月10日現在））

総会成立の要件：通常会員現在総数の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし，総会に出席できない通常会員で，当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者，および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。（定款第38条）

議 事

1. 開会

石田理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に林陽生会員（筑波大学）を選出した。

3. 理事長挨拶

今年度の春季大会の開催については新型インフルエンザの発生により，特に準備が大変であったが，そのような中，開催に尽力いただいた大会実行委員会、講演企画委員会の皆様にお礼申し上げます。気象学会は5月初旬に新型インフルエンザが国内で発生したことを受け，5月10日に常任理事会内に新型インフルエンザ対策委員会を設置した。大会の運営に際しては筑波大学の学生にアルバイトを御願ひする予定であったが不可能となり，やむなく気象研究所を始めとするつくば市内の各研究機関の会員にボランティアを引き受けていただいた。関係の皆様深く感謝する。

日中韓気象学会共催国際会議の開催については直前まで予定通り開催する方向で準備を進めていた。しかし，インフルエンザ感染者が急増していることをうけて，やむなく秋以降へ延期することとした。近藤豊理事・田中理事始め実行委員会の皆様にはぎりぎりまで折衝を行っていただき感謝する。また，会員の皆様には間際に延期が決まりご迷惑をおかけした。会議は11月8日～10日につくば国際会議場で開催する。春季大会と時期が異なるので旅費等の面等でご負担をおかけするが是非とも参加いただきたい。

公益社団法人化に向けた活動であるが，支部会計の統合は支部のご協力のもとに実現し，今後は定款の見直しが必要となる。その際，現在の会員制度も見直す必要があると思われる。気象学会はこれまで積極的に社会に対して働きかける姿勢は少なかったが，最近の地球環境問題等に関する一般社会の認識を見るにつけ，学会として正しいと考えるところを声明等で発表していくことが必要と思われ，そのための基準を整備した。この基準に基づき，宇宙基本計画における気象学・大気科学に関する振興について要請書を発したところである。公益社団法人化と声明等の基準については後ほど総合計画担当

理事より説明をお願いします。また、地球環境問題に並んで災害問題にも積極的に取り組むために気象災害委員会を3月に立ち上げた。気象災害委員長には地球惑星科学連合にも出ていただく。

地球惑星科学連合(以下連合)は昨年12月に一般社団法人となり、近々公益社団法人の申請を行う予定である。連合は正会員と団体会員から成る。気象学会としては連合と協力しつつ、連合にはなじまない分野もあることから独自の活動を推進していく。この総会では社団法人としての気象学会が連合に団体会員として参加することについてご審議いただきたい。また、連合の正会員は6つのセクションのいずれかを選んで登録することになる。気象学会が連合内でも積極的に活動するために、会員の皆様には是非とも連合の正会員になっていただき、大気海洋・環境セクションにご登録いただきたい。

気象学会を取り巻く状況が急速に変化する中、学会として中長期のビジョンが必要と考え、昨年6月に立ち上げた学術委員会で検討を重ねてきた。これについては後ほど学術委員長より説明をお願いします。

若手研究者問題については、昨年3月に日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会(IAMAS)小委員会が共同でアンケートをとった。この解析結果については学会ホームページで見ることができ、近々「天気」でも報告予定である。この問題に対しては学会としても可能ことから対策を実施していきたいと考えている。講演企画委員会には応用物理学会のようなキャリアエクスプローラロゴの導入を検討いただき、今年の秋季大会から試験的に運用を行っていくことになった。それ以外にも対策を検討中であり、実現の目処がつけましたら順次報告したい。

評議員会では気象学会が行うべき社会貢献について様々な提言をいただいた。初等・中等教育における科学教育が大きな問題を抱えており、これに伴う一般市民や行政担当者の科学に対する理解不足が、我が国におけるサイエンスの推進に影を落とすつつあるという指摘は印象的で、正しい知識の啓発が不可欠という思いを強くした。評議員会の議事録は天気7月号に掲載予定であるので是非ご覧頂き、この問題に関する思いを巡らせていただきたい。

4. 表彰

(1) 学会賞

学会賞候補者推薦委員会担当の中島理事が選定理由を説明し、藤谷理事長代理から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

中西幹郎(防衛大学校地球海洋学科)

新野 宏(東京大学海洋研究所)

ラージ・エディ・シミュレーションに基づく改良Mellor-Yamada Level 3 乱流クロージャーモデル(MYNNモデル)の開発と大気境界層の研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会担当の藤谷理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

秋元 肇（独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）

日本における新しい大気化学の推進

深尾昌一郎（京都大学名誉教授，福井工業大学工学部）

大気レーダーの開発と活用による気象学・気象技術の発展への貢献

5. 2009年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2008年度事業報告

石田理事から、会員数の動向、機関誌等の刊行、大会の開催、研究業績の表彰、支部活動、普及活動等の事業報告があった。また、2008年度事業報告における機関誌等の刊行について、気象集誌の特別号について補足した。

議案2：2008年度収支決算報告

中本理事から、財産目録総括表や収支計算書等に基づき決算報告があった。

議案3：2008年度監査報告

藤川監事から、帳簿類の管理、収支、会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2008年度の活動について学術交流、研究成果の公表活動、普及活動等が進んでいるとの評価を受けた。しかし、会員数の減少に伴い会費収入が減少しており、2008年度の収支状況は全体で約348万円の黒字であるものの、現行のペースで会員数が減少すると財政面において支障がでることへの懸念が指摘された。

議案4：理事の辞任に伴う後任の推薦について

新野理事長から、全国区及び地方区理事の辞任に伴う追加推薦者について説明があった。

議案5：一般社団法人地球惑星科学連合への団体会員としての加盟について

新野理事長から、地球惑星科学連合への団体会員としての加盟について提案があった。

議案6：2009年度事業計画（案）

石田理事から、従来 of 事業に加え、新公益法人制度の下で2010年度に公益社団法人の認定申請を行うことを目標に必要な準備を始めること、日本・中国・韓国気象学会共催国際会議を延期するものの2009年度に行うこと、気象災害委員会（仮称）を立ち上げること等の事業計画が提案された。

議案7：2009年度収支予算（案）

中本理事から、各支部の会計を本部会計に統合し、各支部の収支を直接本部会計の収支として扱うこと、及び日本・中国・韓国気象学会共催国際会議の開催費用として、

「国際学術交流」科目に必要な額を計上すること等が説明された。

(2) 質疑応答

会員数の減少に対してどのような対策を講じているのか、との質問があった。これに対し新野理事長から、会員数減少の原因の詳細な分析を現在行っているところであること、対策としては例えば会員限定のサービスとして、オンラインで魅力的な会員向け情報を提供する等を開始することなどを考えている。何か良いアイデアがあれば提案してほしいとの回答があった。

6. 採択

議案1～7について、有効総会参加票（下記註）も含め以下のように賛成多数で承認された。

議案1：賛成 681，反対 0，保留 1

議案2：賛成 681，反対 0，保留 1

議案3：賛成 680，反対 0，保留 1

議案4：賛成 677，反対 1，保留 4

議案5：賛成 676，反対 1，保留 5

議案6：賛成 677，反対 1，保留 4

議案7：賛成 676，反対 2，保留 4

〔註〕有効総会参加票（598票）で全ての議案に賛成の328票及び議長が全ての議案に賛成したため議長委任分の229票を賛成に繰り入れた。議案毎の賛成・反対・保留の表明は35票。

7. 報告

(1) 中長期ビジョンについて

学術委員会担当の岩崎理事より、研究活動支援、社会貢献活動の推進、教育・人材育成の3項目から成り立つ気象学会の中長期ビジョンについて説明があった。

(2) 公益法人移行について

総合計画担当の藤谷理事より、公益法人への移行に関して、支部会計の統合が無事に済んだことが報告された。また、新法人移行に際しての社員資格等について、公益認定等委員会に相談等を行ったこと、並びに、その結果を受けて定款等の見直し作業に入ることが報告された。

(3) 日本気象学会における声明等の取り扱いについて

総合計画担当の藤谷理事より、気象学会における声明等の基準の制定について説明があった。さらに、基準に則って、大学附置研究所等の全国共同利用・共同研究拠点、研究所の統合、宇宙基本計画の策定等に関して要請を提出したことが報告された。

8. 議事録署名人の指名

議事録署名人に日下博幸会員（筑波大学）と植田宏昭会員（同）を指名したところ、異議なく承認された。

9. 議長解任

林議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

10. 閉会

石田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成21年6月24日

総会議長 林 陽 生 印

出席者代表 植 田 宏 昭 印

出席者代表 日 下 博 幸

